

令和5年度 市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和6年（2024年）3月21日（木）
午前10時から12時まで
- 2 開催場所 平塚市美術館ミュージアムホール
- 3 参加者 子育て支援団体ママぎゅっと6人
- 4 テーマ 子育てママが輝ける平塚



5 市長あいさつ

今日は「市長と語ろう！ほっとミーティング」に参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

ほっとミーティングについては、市政を見直していく中で、市民の皆様の声聞いて、まちづくりに活かしていくことが必要ではないかと思い、平成23年から開催してきました。最初は地域ごとに地域の課題などをお伺いしました。その後は、東日本大震災直後に就任しましたので、防災の関係などをお伺いしました。コロナ禍においては、地域のつながりが薄れてしまうことがとても心配でしたので、そういうお話もお伺いしました。また、様々な活動をしている団体の皆様や農業などの産業関係の皆様のお話もお伺いしました。特に子育てについては、平塚市だけでなく、県や、日本全体にとっても、今一番大きな問題だと捉えているため、子育てに関わる様々な方にもお話をお伺いしてきました。

3月の議会で新年度予算を承認していただきましたが、平塚市政始めて以来、一般会計予算が1000億円を超えました。それだけ様々な市民サービスが必要な時代であり、特に子ども子育てへの支援が重要になっていると思います。

今回、平塚市を拠点にママの出会いとつながりをサポートしていただいている「ママぎゅっと」の皆様にお集まりいただきました。本当にお忙しい中ありがとうございます。「子育てママが輝ける平塚」をテーマに、子育てする方の交流の場づくりや勉強会の開催など、様々なお話が聞けるのではないかと楽しみにしています。御苦労話も含めてお聞かせいただければありがたいと思っています。

さて、今年1月末に国が人口の移動報告を発表しました。令和4年の転出と転入の差が1676人で転入増となり、全国で25番目になりました。これまで8年連続の転入超過でしたが、去年も転入者が増えて9年連続となりました。外国の方を含めると2688人の転入超過で、全国では10位になりました。それだけ子育て支援の取組について評価いただいているのだと考えています。ここ数年、駅周辺に2700戸程度のマンションが建設され、駅に近いということで主に高齢者の方に転入していただけているのかと思っておりましたが、子育て世代にも転入いただいています。本当にありがたいことだと思っています。

持続可能なまちづくりを進めるには、やはり全力で子育てに対する支援や応援をしていき、子育てしやすい環境を整えることが必要であると思います。平塚市は、「“選ばれるまち、住み続けるまち”」「“子育てするなら平塚で”」を目指していますので、子育てという重要課題に今後もしっかりと取り組んでいきます。子どもは将来を担う宝ですので、子育てに対し

て、どういう形で行政が支援をしていくかが問われている時代だと思えます。その辺りも含めて一緒にお考えいただければありがたいと思えます。皆様の御苦勞されていることも含めて、お話を伺えればと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。

6 主なミーティング内容

【司 会】

今日は「ママぎゅっと」の皆様にお集まりいただき、子育て中のママたちがどうしたら輝けるかをテーマに話し合いをさせていただきます。日頃感じていることを市長に聞いていただく機会ですので、よろしくお願ひします。それでは参加者の皆様から自己紹介をお願いします。

【参加者】

私は平塚生まれ平塚育ちで、一時期仕事で仙台の方に住んでいました。東日本大震災で被災した経験から、隣近所との顔が見えるつながりの大切さを感じたことが、「ママぎゅっと」設立のきっかけになったと思えます。

子どもは上の子が高校1年生の女の子、下の子が中学2年生の男の子で2人とも学校に行けなくなってしまいました。どうやって教育を受けさせるか長年悩んできましたが、いろいろな仲間からのサポートなどのおかげで、子どもたち一人一人の思いを尊重して、生きることを選択し続けられていると感じています。

「ママぎゅっと」の活動はとても楽しく、「かわいい」を大事にしているので、私にとってもエネルギーチャージの時間になっています。仕事は講師をしていて、プレゼンテーションやファシリテーションなど伝える仕事をしていますので、発信することを大事に、「ママぎゅっと」でも活動しています。

【参加者】

私は熊本出身で、2019年までは都内にいました。1人目が生まれた後、コロナ禍が始まったこともあり、子育てをするまちということで平塚市に引っ越しました。その後に次女が生まれて、今は4歳と2歳になります。仕事は民間企業にフルタイムで勤めています。

次女の耳が聞こえにくいことから、子育て支援について考える中で、平塚市とはどういうまちなのかや、ママさんたちのつながりを知りたいと思ひ、「ママぎゅっと」に参加させていただきました。

【参加者】

生まれも育ちも平塚です。結婚後、主人が全国を転勤する仕事をしていたため、西日本を中心に転勤し、その間に出産しました。子どもは、上が中学校1年生の女の子、下が小学校3年生の女の子の2人です。転勤を繰り返す中で、仕事と子育てをどうやってやりくりしたらいいのか悩みながら育児をしてきました。3年前に平塚に戻ってきたタイミングで、「ママぎゅっと」の代表から一緒に活動してみないかと声を掛けていただき、参加しています。

【参加者】

私は東京都出身で、10年前に平塚に引っ越してきました。上の子が小学校2年生、下の子が幼稚園の年中です。平塚で出産と子育てをしてきました。上の子のときは子育て支援センターに積極的に行っていたのですが、下の子はコロナ禍もあって周りの子と関わる機会が少なくなりました。自分の中でつながりが希薄になってしまったと感じたので、去年から「ママぎゅっと」に入らせていただきました。周りのママさんや地域の方ともっと関わっていきたくて活動させていただいています。仕事はパートやオンラインの仕事をしたり、「ママぎゅっと」のWebサイトやインスタグラムのアカウントの管理をしたりしています。

【参加者】

私は子どもを出産するときに平塚に引っ越してきて、12年ぐらいになります。子どもは上の子が6年生、真ん中の子が4年生、下の子が1年生で全員小学生になりました。長女が特性の強い子どもで、子育てしにくいと思いながら日々過ごしていました。知り合いもそんなに多くなかったので悩んでいましたが、子どもたちもきっと平塚で生きていくのだろうと思うと、たくさん知り合いや助けてくれる人を作ってあげた方が良かったと思いました。また、私も助けてほしいという思いもあり、「ママぎゅっと」の代表に連絡をとったのが活動するきっかけです。

実際に参加してみると、多くの人と関わることができました。子どもたちも様々な人と関わることや、人から褒められることで自信がついてきて、親子そろって楽しく活動をしています。仕事は栄養士で、企業の健康経営や子どもの食育に携わっています。

【参加者】

私は、平塚生まれ平塚育ちで「ママぎゅっと」の代表とは小、中学校の同級生です。結婚と出産を機に、子育てをするなら地元に戻りたいと平塚に戻ってきました。

仕事に復帰をしたとき、子育てママのグループは多いと思っていました

が、あまりありませんでした。自分は出産が少し遅かったので、子育ての年代が周りの人と違いました。若いお母さんと触れ合う機会がないか探していたところ、同級生で「ママぎゅっと」を立ち上げたという形です。

私は地域のフリーペーパーの記者をしていて、平塚も担当したことがあります。自治体の子育ての取材をしてきて、平塚の子育てはどういうものなのか個人的にも興味がありました。文章にするのが得意なので、何かを発信することができれば、様々なところに情報が伝わるのではないかという思いもあり、「ママぎゅっと」ではママ記者の育成を担当しています。

【司 会】

皆さんのプロフィールを御披露いただきました。それでは、「ママぎゅっと」の活動について代表から説明していただきたいと思えます。

【参加者】

「ママぎゅっと」は、平塚で副代表と再会したことから始まっています。副代表が勤めているフリーペーパーが、子育て支援の活動をされている方取材している中で、私が実施していた子育てママさんの悩み相談取材しに来られました。そこで副代表に声を掛けていただき、もっと面白いママさんたちがいるのではないかという話になりました。お互いの知り合いのママさんに声をかけて、城所にある「きいろいおうち farm」を最初に立ち上げました。

お母さんたちが、安心して子育てをするために必要なものについて考えると、何か手に触れるものでも、目に見えるものでも、行く場所でも、かわいいと元気が出たり、ほっとしたり、嬉しい気持ちになったりします。そこから子育てや仕事を頑張ろうという気持ちになれるので、「かわいい」を大事に活動しています。

3年ほど前から、月に1回、ママに晩ご飯作りを休んでもらおう、という趣旨で、シェアディナーという晩ご飯会をNPO法人未来経験プロジェクトと一緒に立ち上げました。また、起業したいなど、自分の能力を活かして仕事ができるチャレンジの場や、平塚近隣にお住まいのお母さんたちの活動発表の場として「ママぎゅっとフェス」を開催しています。また、今年度に「sopo 平塚」という子育てポータルサイトを立ち上げました。

【参加者】

2022年度に、子育てママに対する1000人アンケートを実施した中でいろいろな意見が出たのですが、とにかく平塚の情報がほしいという意見が圧倒的に多くありました。「sopo 平塚」には、平塚について、ママ記者とパパ記者がいろいろなところで取材をした内容が掲載されています。おい

しいものや制度のことなどが紹介できるサイトになれば良いと思い、今年の3月3日にオープンして、フォロワーも徐々に増えてきています。

【参加者】

私と副代表がマスコミの出身ということもあって、平塚の魅力を住んでいる人にもまだ知らない人にも発信し、移住促進と定住促進につなげていくことも活動の中には含まれています。

今はSNS全盛の時代で、子どもたちもスマホを持ち、インターネットに触れる機会が大変多くなっています。お母さんたちがITリテラシーやネットリテラシーが分からない状態で、子どもがインターネットを始めてしまって被害に遭うということもあると思います。まずは親がしっかりとネットリテラシーのことを学べるよう、2年前から定期的に講座を開催しています。

そのほか、お母さんたちの心の問題、産前産後の体の問題、お金の問題、起業についても、定期的に講座を開催していきたいと思っています。

【司 会】

「ママぎゅっと」が立ち上がって5年ということで、徐々に力をつけていく段階だと思います。

子育て中のママが輝けるまちになるために、皆様それぞれ自分ができること、あるいは御自身の背景を通じて活動されていると思います。こんなまちをつかっていきたいという思いがあれば、1人ずつお話を伺いたいと思います。

【参加者】

私が考える「“子育てママが輝けるまち”」ですけれども、いろいろなアイデアを思いついたときに、すぐ行動を起こせるためのサポートがしっかりあると良いと思います。

何かしようとしたときに専門的知識がなく、どこに相談すればいいのか、二の足を踏んでしまうこともあります。市民活動センターのような相談しやすいところがあると良いと思います。ママ自身がつながるようにうまくサポートできるところがあると輝けるのではないかと思います。

【司 会】

まず住んでいる方々のアイデアがあって、それを形にしたいと思う方がどれだけいるかということも大事ですね。今話を聞いて、こういう勢いのある方々が増えると、まちが活性化するのだろうと思いました。

【参加者】

私は自分の仕事柄、健康をテーマにしている、健康であれば何でもできると思っています。病気でないこともそうですが、心が元気であることもとても大事だと思います。体の健康は目に見えますが、心が疲れていたり、いやなことが積み重なったりすると、大爆発してしまうことが、お母さんたちには多いと思います。

平塚には、山も、海も、緑も、遊ぶところも程よくあって、健康になるにはとても良い場所ですが、皆、深呼吸を忘れていていると思います。誰もが生き急いでいるので、1日1回はしっかり深呼吸をしてほしいと思います。心と体が整えばアイデアも生まれてきますし、子どもと遊ぶのも楽しくなります。少し余裕ができれば仕事をしようという気力も湧くと思うので、まずは深呼吸をしっかりできたら良いと思います。

働くお母さんにとって何が一番困るかと言えば、子どもが風邪を引くことです。子どもが風邪を引かなくなる食事のセミナーは大人気でした。子どもが健康になるとお母さんも安心しますし、休ませてもらいたいという心のもやもやが晴れます。せつかく環境が整っているのも、子どもも大人も家族みんなが健康になれるまちができれば、子育てママが輝けると思います。

【司 会】

健康は本当に大事だと思います。ママが元気だと子どもも元気という言葉がありますが、実は子どもが元気でないママが元気でいられないという話ですよ。

【参加者】

私は知り合いがいない状態で平塚市に越してきて、子育てを始めました。1人目のときは、大人としゃべりたいと思い、福社会館や子育て広場などに行っていました。雨の日だと駐車場が満車で入れなかったり、行きたくても行けないような状況もあったりして、ママが気軽に繋がれて安心できる場があると良いと思っていました。

万田に住んでいますが、町内福祉村「あさひの絆」で開設している子育てサロンに遊びに行くようになったことで、地域のママさんと気軽に話せるつながりができて、そこから、自分が安心できる場が少しずつ増えていきました。しかし、そういうところに行けないママさんも多くいるので、地域のつながりがあれば良いと思います。自分から出られない方に出てもらうのは大変だと思います。ママ同士が気軽につながる場が平塚にあることを知っていれば、何かきっかけがあったときに、そこへ遊びに行けます。ママが輝けるとするのは、ママ自身が安心できる場があることが

重要だと思っています。

【司 会】

安心できる場というのは、とても大事だと思います。地域の中にはサロンなど居場所がたくさんあると思いますが、ママたちが行きたいと思うポイントはどこだと思いますか。

【参加者】

否定されないことや、話を聞いてもらえることなど、その方の性格により違うと思いますが、まずは、ありのままを受けとめてもらえる場があれば良いと思いました。

【司 会】

地域には様々な場所があるにもかかわらず、ハードルが高くて行きづらいと考えるママたちを今後どうサポートしていくかが課題だと思います。

【参加者】

仕事をしながら子育てをするライフスタイルを作っていく中で、子どもが小さいときには子育てに重点を置くのですが、子どもがある程度大きくなって小学生、中学生になったときに、仕事に重点を置こうとすると、子どもが1人で過ごす時間がとても長くなります。親から離れたところで、親以外にサポートしてもらえるのかどうかが、ママが輝けるのかどうかのポイントになると思います。

【司 会】

子どもを地域で育てるという考えをずっと持っていて、やはり子どもが小さいときに地域とのつながりをどれだけ作っておくかが重要だと思います。つながりがあると、自分がすごく楽になります。私も子どもが小さい頃、子育てのサークルなどに関わってきましたが、幼稚園や小学校のボランティア活動、PTA活動、自治会活動には積極的に参加して、子育てを親以外に任せられる環境をいかに作っていくかを考えてきました。

【参加者】

「ららぽーと」にあるような、キッズスペースとご飯を食べられるスペースがセットになっている場所が、あまりないと思います。子育て支援センターのような子どもが遊べる場所は、ママがゆっくりできる場所ではありません。ゆっくりできるカフェの中にキッズスペースがあって、子ども

を見ながらお茶ができるような、ママと子どもをセットにして考えていただく施設があれば良いと思いました。

【参加者】

どのようにサポートしてもらうかを考えるのはとても大変です。おそらく、保育園の友達でも1日預かるのは難しいです。コロナ禍ということもあって、ほかの子に話し掛けてはいけない、接してはいけないという期間が長かったので、よりハードルが高いと感じます。私の場合、地域の畑を手伝いに行ったり、公民館に行ったりする機会が多かったので、そういうきっかけがあると良いと思いました。

【司 会】

やはりコロナ禍のこの3、4年というのは、小さいお子さんを育てているお母様方には非常に大変だったと想像します。声掛けをしてはいけないとか、顔が見えづらい中で、つながりを作っていくことは非常に大変だっただろうと思います。少し高くなっているハードルを払拭していきながら、これから子育てをしていくママたちがどうやって乗り越えていくのかも、課題だと思って聞いていました。

【参加者】

平塚市に引っ越してきて、次女を出産して子育てを始めたところですが、生まれた後に難聴だということが分かりました。平塚にはろう学校があるのを知っていたので心強いと思っていましたが、実際にはどこのサポートを受けられるのか分からず、産後の混乱の中で探すのがとても大変でした。その中でろう学校の方にはとてもお世話になりました。地域のママさんから人工内耳の手術に対して助成があるかもしれないという話を聞いていたのですが、平塚市には助成がありませんでした。平塚市にはろう学校があるため、いろいろなサポートを受けられると勝手に思っていたので、こういうところでつまづくのはショックでした。これからの難聴のお子さんがショックを受けないようにしていただきたいというお願いと、助成を見直していただきたいという希望になります。

【参加者】

私は8年前に離婚して、そこからワンオペが日常茶飯事でした。さらに、子どもが学校に行かなくなったことで、父親の代わりもしなければいけないと思いました。また、友達や先生の代わりもすることになり、私1人で何役やれば良いのかといった不安に陥りました。

誰でも自分が輝こうと思ったときは、情報を取りに行くと思います。マ

マたちが情報を求めて市役所に電話したとき、電話交換では担当部署につないでくれますが、つないだ先の課ほしい情報の一部しか分からなかったり、さらに他の課に回されたりして、時間と労力と精神的な負担がかかります。

輝くためには、いかに早く情報にアクセスできて、アクションできて、同じような境遇の方とシェアできるという、この3段階があることが重要です。

今日は、パパのことについて一言も触れていませんが、子育ての一番身近な協力者は、お父さんだと思います。でもパパが手伝うという感覚で家事や子育てに参画している状況が多く、ママが輝けるまちを目指すのであれば、パパは手伝うのではなくて、ママの御機嫌の取り方を知っていることが大事だと思います。

私も子どもが学校に行かなくなったとき、PTA活動や地域の地図の作成、読み聞かせなどを頑張った結果、ようやく先生たちがこの家の子どもは大変だと認知してくれました。先生たちが気に掛けてくださることは、とてもうれしいのですが、先生の働く環境がとても心配です。先生に負担をかけてまで特別な時間を作ってもらうことは、とても申し訳ないと思います。子どもには自分以外の大人と関わってほしいと思います。ママが輝くためには、子どもと接する機会がある場所で働くスタッフの環境やメンタル面のサポートが必要だと思いました。

【参加者】

子育ての情報はもっとほしいと感じますし、ママ同士の出会いの場があっても良いと思います。また、お金の問題は大きいので、専業主婦でも自由に使えるお金があれば、自分の趣味など、やりたいことに使えると思いました。

【司 会】

様々なお話を聞いていると、やはり時間・労力・精神的な負担などがネックだと思いました。パパが全然出てこないことも気になりますね。パパについて何かありますか。

【参加者】

我が家は夫に全面協力してもらっていて、清掃、洗濯など全て協力してくれます。育児については答えが一つではないので、おそらく家庭によっていろいろな分担があると思います。迎えは何となく母親の役割のようになっているのですが、全くそんなことはありません。同じタイミングで親になったことを認識することが大事だと思います。

平塚は都内へ働きに行く人が多いですが、通勤に時間がかかるので、平塚の会社で働けば良いと思います。夫は大田区で働いていますが、午後5時ぐらいに帰ってきたときには褒めてあげるようにしています。男性は努力を認めてほしいですし、私も夫自身が主体的にやっていることを傷つけないようにしたいと思っています。夫は自分も全力で子育てしていると思っていますところがあり、もしかしたら私よりも、子育てについて関心が高いので、今日のお話を聞いて言いたいことがたくさんあったのではないかと思います。

【参加者】

うちの夫は横浜に通勤しており、朝6時過ぎに出て、夜10時過ぎに帰ってくるので、基本的にはワンオペです。子どもが生まれたときからその環境が当たり前だったので、私のペースを乱さないでくれればそれで良いと思っています。変に手を出されると私も乱されるので、いないならいない方が楽に感じます。何をすれば良いかという、私が心地よい生活ができるように機嫌をとるなど、私のことだけ考えてくれればそれで良いです。

【参加者】

うちの夫は平塚市内に勤めており、ホワイトな働き方をしています。帰ってきてからも時間があるので、よく子どもの相手をしてくれます。ただ、私より夫の方が平塚に長く住んでいるのに、地域の方と関わりがないようです。だから老後が心配ですね。本人は友達がいなくても大丈夫なタイプなのですが、後から平塚市に引っ越してきた私の方が、知り合いが多くいます。お父さん同士のつながりは、だんだん減ってきているので、そういうつながりがあると良いと思います。

【司 会】

ママが地域とつながりを持って、そこからお父さんの地域デビューにつながるように、うまくコントロールしていただけると良いと思いました。

【参加者】

主人は都内に勤務していて、朝7時には家を出て、夜9時過ぎに帰ってくるので、いてくれたらラッキーだと思っています。土日はお休みですが、なかなか家族全員がそろうタイミングがありません。

今後も転勤の可能性があり、その時は主人が単身赴任をするスタイルになると思います。そういう中で、どうしたら主人が地域とのつながりを持つことができるのかを考え、小学校のボランティア団体の活動を勧めてみたところ、参加してくれました。今年は自分からそのボランティアに参加

したいと言ってくれたので良かったと思っています。

【参加者】

夫は1子目と2子目で、生活も行動も変わって進化しました。1子目のときは、基本は私が育児をして、夫は泊りがけの仕事もあったので、育児には興味がないような感じでした。2人目が生まれたときに難聴のこともあったので、療育など行くところがいろいろありましたが、全て1人でやっていました。このまま仕事に復帰するとなると、自分もパンパンになってしまうので、分担をしたという感じです。

上の子はお父さんが責任を持つような分担にしてくれたので、とても感謝しています。ただ、いるかいないのか分からないぐらいであれば、いなくて良いと思う気持ちもあるので、そのせめぎ合いを整理しているところです。

【司 会】

一番身近なサポート体制が家庭だと思うので、皆様のお話には本当に共感します。うちも朝早くて夜遅く、基本的にワンオペなので、私は地域が頼りでした。皆様からいろいろお話を伺って、やはり地域がママをサポートして、生きやすい・生活しやすい・暮らしやすい環境をどうやって作っていけるかというところが重要だと思います。そして、つながることができる場があることが大切だという話ですが、市民活動をしている皆様なので、自分たちでそういう場を作ることもできると思いました。ここまでのところについて、市長にお話を伺いたいと思います。

【市 長】

行政は大きな枠の中で進めなければいけないので、平塚市が行ってきた取組では目が届かないところがあり、申し訳ないと思います。素早く動きたいのですが、情報の入手の仕方やスピード感など、行政としての努力がまだまだ足りないのではないかと思います。

平塚市は9年連続で転入超過となり、選ばれるまちにはなっていますが、実際に子育てをしてきた人たちに対して、もう少し取り組むことができる支援について考えさせていただきたいと思います。

先ほどパパの話題が出ましたけれども、平塚市ではパパにも子育てに参加してもらいたいということで、様々な施策を立てました。例えばパパの育休取得に対する助成があります。子どもが生まれる前に母親父親教室に参加するなどの条件はありますが、パパの育児への参加が大きな目的になっています。

私が就任した平成23年度当初から平塚で子育てしてほしいという思い

がありました。平塚市を認知して転入していただけるように、子育てしやすいまちにしていこうと考えてきました。当時から、子ども子育てへの支援は1つの自治体ですべてできるものではなく、国全体でどのように子どもを産み育てやすい環境を作っていくのかという点が、一番大きな課題であると思っていました。そこで、就任2期目のときに、子ども子育て推進会議を立ち上げて、これからの子育てに必要な支援などをまとめました。

子育て支援にはお金がかかるので、平成28年度に子ども子育て基金を作り、子育てに関する施策への予算を確保することにしました。政府が体制づくりを進めていますが、平塚市では10年ほど前から取り組んできました。皆様のお話を伺って、情報の出し方や時間、労力、様々な負担の問題も含めて考えていく必要があることを、改めて認識させていただきました。

私としては、平塚市で子育てしていただくことが何よりも嬉しいことです。そういう方たちに平塚市で子育てして良かったと思っていただける環境を作っていくことが必要だと考えています。その一つとして皆様のお話をお伺いして、政策や事業に活用していきたいと思っています。特にパパに育児参加の意識を持っていただくような政策に取り組んでいきたいと思っています。

昔は働き詰めの生活スタイルでしたが、これからどのように生きていくかを考えたときに、地域や人とのつながりが大変重要だと思っています。

公立の公民館が小学校区に1館ずつある自治体は平塚市だけです。地域の中で様々な活動をするときに、公民館を使っていただければつながりを作る役に立ちますし、できればコミュニティセンターのような形で使っていいただくのが最良です。地域活動や行政サービスを公民館中心に行い、そこから人とのつながりを生み出していくように活用していただければ、ありがたいと思っています。

また、よく2024年問題と言われますが、本当に働き手が少なくなってきました。働き手不足の問題が子どもたちの生き方に悪影響を及ぼさないようにしなければならぬと思っています。

保育園には待機児童が少しいますが、平塚市で子育てしやすいように保育士の手厚い配置についても考えています。子どもが育って生きていくために必要な環境を、マンパワーでどのように補っていくかをしっかりと考えていきたいと思っています。

その他様々な子育て支援についても、検討させていただきたいと思っています。

【司 会】

平塚市もイクボスに取り組んでいますが、最近のお父様は生活しにくい

と感じます。仕事もして、育児もして、家事もして、もっとやりなさいという時代になってきています。それはママの自己実現という欲求が高まっている時代が背景にあると思います。昔のように家を守るのが女性という時代ではなくなっています。双方がどれだけ自己実現できるかというせめぎ合いが、今の環境の中にあると感じたところです。

それでは次のテーマですが、市内には子育て支援をする団体がたくさんあります。そういった団体の皆さんが地域で元気に活動していく、活動を続けるということに対して御提案やアイデアをいただけますか。

【参加者】

子育て支援団体が地域で活動をするためには、どんな課題があるかについて我々も話をしています。全員が仕事をして育児もしているので、活動にかける時間を作ることが難しいですが、これはどの団体にもある課題ではないかと思っています。「ママぎゅっと」は設立当初から、緩く・細く・長く・無理しないことを大事に活動しています。誰かを支援することや、助けられたい・助けたいという共助の精神を大事にしてきたことが続けられた要因だと思っています。今までの子育ては、こうあるべきという考えが強かったような気がするので、自由に言い合えるような環境づくりというのは大事だと思っています。

先日、みんなのまちづくり事例の中で、市長やいろいろな団体の方と意見交換させていただきました。地域とつながる活動をしたいと思う方々に向けての入口があまりないと思いますので、情報発信の部分でそれをキャッチしやすい状況を作っていただけたら嬉しいと思いました。

行政サービスを知らない人が多いので、公共施設の使い方などをもっと周知してもらえたら良いと思います。我々も取材などを通して周知していきたいと思いました。

【司 会】

私が若い頃は、公民館は誰が行く場所なのか分からなくて、ハードルが高かったですね。行き始めるとハードルは低くなりますが、最初の一步をクリアするまでは、かなり葛藤があったことを思い出しました。また、いろいろな施設の使い方や、行政サービスの情報をほしい人へどう伝えるかに問題があるような気がするので、そういったところも課題だと思って聞いていました。

【参加者】

活動する側と見る側で違うと思います。まず活動に参加している立場からいうと、さっきおっしゃっていたように、緩く・細く・長く・無理しな

いことは大変重要です。半年前に取材した記事をやっとこの間まとめましたが、それも許してくれます。一方で、自分が書いてみたい記事の書き方を考えてくれたり、自分が書いた記事をインスタのようにおしゃれに載せてくれたりすることが、とても嬉しいです。自分のやりがいや、やりたいことがかなう場所があることは、とても重要だと思っていますが、それをするために無理をしないということも、すごく良いなと思っています。

逆にその支援の活動を見たい、知りたいという立場からいうと、見て楽しくないと目に留まらないですね。硬い言葉だけを並べられている情報はおそらく見ません。情報がかわいいイラストや楽しんでいる人の写真など、クリエイティブなものであれば、かなり目に留まる人数が変わるのではないかと思います。そもそも子育て支援がどういう場所にあるかを知らないで、パンフレットみたいなものがあれば、雰囲気なども含めて、引越してくる人たちに伝わりやすいと思いました。

【司 会】

情報発信については本当にそうですね。誰に届けたいかという届ける側の視点と、何が知りたいかという受け手側の視点がマッチングしないと、情報は空振りしてしまいます。届ける側と受ける側の両方の立場から御発言いただき、ありがとうございました。

【参加者】

子育て支援団体は子育てしている人と子育てしていない人の垣根を取り払って、地域をベースに活動するというのが、続けられるポイントだと思います。

子育てしていなくても、子育て支援に興味がある人たちをいかに取り込めるか、つながりを作ることができるか、というのがポイントではないかと思っています。

【司 会】

子どもがいてもいなくてもというのも重要な視点ですね。子育て支援サークルで保育ボランティアをする方々は、実際に子育ての経験がない方でも活動しています。そういう意味では、子どもがいるかどうかは関係なく、地域で子育てするというお話は、「ママぎゅっと」が目指しているところですね。

【参加者】

私は活動を続けるためには、お互いが Win-Win な状態が必要だと思います。ボランティアだけでは続けられないとっていて、それなりの対価が

あった方が割り切れるという気持ちもあります。ファミリーサポートセンターを利用したときに、手ごろなお値段で1時間子どもを見てもらえるというのは、とても有り難い経験でした。やはり見てもらったからには、きちんとお金をお支払いしたいし、その方がお互いに責任が生まれて良いと思ったので、対価が支払われる形は必要だと感じています。

【司 会】

ボランティアで全て無償というのは、今の時代では厳しいですよ。先日神奈川県で会議があり、NPOで25年ぐらい活動している団体でボランティアが集まらないという話がありました。例えば500円でも1000円でも対価がもらえれば参加する人は増えてきますが、完全な無償でボランティアをする人は、いなくなりつつあります。それだけ長く活動していると、メンバーも高齢化して高齢者ばかりの団体になってしまい、会を閉じようか検討しているという話でした。今後のことを考えると、やはり対価が支払われる仕組みは重要だと思います。

【参加者】

私は「ママぎゅっと」に参加した後、平塚市の子ども子育て支援ネットワークの方に誘われたので、軽い気持ちで参加したところ、思いのほかガッツリ活動することになりました。参加して気づいたことは、自分の子育てが大変なときに助けてほしいと思っていましたが、助けたいと思っている人もこんなにいたということです。

そういう人とは、一歩踏み出さないとなかなか出会えません。参加してみると、私が心を閉ざしても開けにきてくれる人たちがたくさんいることが分かったので、そういう人たちと出会う場があったら良いなと思います。

今は寺田縄に住んでいるので、どこに行くにも遠いと思います。公民館が学区に一つあるならば、そこに行けばつながれるような場が、もっとあれば良いと思います。

4月から子どもが小学生になるので、子どもが小さい頃の悩みからは卒業しています。子育て支援団体も人が入れ替わっているので、関わりがなくなってしまうと思います。けれども、子育ての時期が終わったから団体との関わりも終わりではなく、ずっとそこに関わっていくような活動ができれば良いなと思います。

【参加者】

公民館は地域の拠点なので、公民館が機能すると良いと思います。公民館を利用する人たちも、だんだん高齢化していきます。子育てが終わった人たちの関わりが終わってしまうのではなくて、そこに残っていくような

つながりができることが理想です。そういうスキームを作っていただくことはすごく重要だと思っています。

【参加者】

活動を続けていく中には、誰かに認められたい気持ちがあると思います。

活動内容が市のホームページやメディアに載ることは、とても励みになります。平塚には子育て支援団体がたくさんありますが、なかなかマッチングが進んでいないと感じます。そういうことを解決するために支援できるようなメディアを自分たちで運営できたら素敵ですし、いろいろな出会いがサポートできるのではないかと思います。

平塚市は子育てにとっても力を入れていて、子どもが生まれると保育課から「くすくす」という子育てガイドをいただきます。この冊子の表紙は、平塚市の目指す「湘南で子育てするなら…」というワードに対してのアンサーとしては、あまりおしゃれではないという印象がありました。私はいろいろな行政の子育て冊子を取材したことがありますが、町田市がかわいいですね。非常におしゃれに作られています。同じようにいろいろな子育て支援団体についても、活動は素晴らしいのですが、文章で機械的に書いてあっても、ママたちに届かないことがあります。

また、隣の部署で行政の広報などを作っていますが、様々な情報を載せる必要があり、紙面を作るのが大変そうです。載せる情報が多い中で、子育ての情報にスペースを割けない現実があると思います。せっかく「ママぎゅっと」で子育て支援情報のサイトを作ったので、そのサイトのことを載せてもらうことはできないだろうかと思っています。ママ目線で取材をした記事を平塚市で取り上げていただくなど、コラボレーションが実現できたら、我々としても励みになるので、そういう提案ができればと思っています。

【司 会】

表現の方法はとても大事で、行政の目線だと、誰にでも分かりやすく、ターゲットを選ばない広報の仕方になります。情報が届く人が限定されるかもしれませんが、ターゲットに合わせて表現方法を変えていくのは、とても重要だと私も思いました。

また、後半には市の広報に「ママぎゅっと」のサイトを載せたいという話がありました。市にも提案を受ける市民提案型協働事業という仕組みがあるので、ここにエントリーしていただくと良いと思いました。団体が元気に活動している様子を市民側から発信することで、市から発信する場合との違いというのが、見えてくるかもしれないと思って聞いていました。

ここまで団体としていろいろな活動する中での課題や理想的な活動、お

願いごとなどがありました。市長にどんな印象をもったかお伺いします。

【市長】

これから市や国の将来を左右する子育ての支援団体として、平塚を拠点に5年間活動していただき、本当にありがたく思っています。

行政も、これからどうやって市を持続させていくかが問われる時代になってきました。これから人口が減少し、行政サービスも単体ではできなくなる自治体が出てくるという予測は、あながち嘘ではないと思います。

現在、総合計画を作っています。将来の平塚のまちをどうしていくかについて、各部署や専門家と検討しています。人口で判断する時代ではありませんが、人口がどんどん減っているまちだと言われことは、そのまちの市長に対する厳しい評価となります。どうやって関係人口を増やしていくか、どうやって平塚の魅力を発信すれば、平塚に住んで子育てをしていただけるかを検討することが必要です。市の持続可能性をどのように追求していくかという考えは、次の総合計画に盛り込みました。

その中で、子どもに関する政策が一番大きな課題だと思っています。子ども子育て施策をどのように充実させれば、子どもたちが健全で元気に育つのか。これからの平塚市を支えてもらうために、どういう形で支援できるのかを、予算も含めて一生懸命考えていきたいと思っています。

皆様は様々な考え方をお持ちですが、これからは自分たちがどれだけ納得し、その活動を続けていけるかということが一番重要だと思っています。行政としては、皆様が活動しやすい環境づくりをどのように支援できるかを考えていきます。

お話を聞いていると、市の情報、広報の発信の仕方が下手なのだと思います。良い取り組みは数多く実施していますが、なかなか伝わっていない。例えば、相談する場所や活動する場所など、なかなか分からないという声は多くありますので、大きな課題の一つとして考えていきたいと思っています。

私としては皆様に引き続き頑張っていただき、無理なく活動していただけるようお願いしたいと思います。

【参加者】

男性育休の助成制度について一つ懸念があります。助成の条件として、最後にママがパパの評価をするという一文に関しては、やはり育児はママが主体だと伝えているように感じます。2人で育児計画を立てているので、2人で評価していくようにすると、非常に時代とマッチしています。子育て世代は言葉にすごく敏感なので、市が意図していることと違うように伝わるともったいないと思います。よく内容を読むと、取るだけ育休を助成の対象外にする意図だと分かりますが、育児はママが主体だという印象に

なりかねないので、ニュアンスを少し変えても良いのではとお伝えできればと思います。

【司 会】

ママが評価するのはおかしいですね。パパとママは対等なはずだと考えると、2人で、あるいは周りの人からなどに変えると良いのかもしれませんが。

【参加者】

情報発信についてのテーマが多かったと思う中で、実際に広報の作成に携わっている担当者はどのくらいいるのですか。

【秘書課】

広報の担当者は20人弱です。

【参加者】

やはり子育て当事者の方々が見て、伝わると思ってくださいる広報が良いと思います。大学生のお子さんを持つ方と乳幼児のお子さんを持つ方では考え方が違います。おそらくテーマによって、担当者がそれぞれはまっていくと思うので、当事者の意見が取り入れられれば嬉しいです。むしろ作っている側の気持ちを知りたいです。ここをポイントに作ったなど、親近感が感じられると、こちらもすごく読みたくなると思います。

【司 会】

それは重要な視点だと思います。親近感を持ってもらえるような情報発信を市長にお願いしたいと思います。

【参加者】

「わくわくマップ」ですが、非常に分かりにくいです。できた当時は画期的なものだったと思いますが、今はグーグルマップなどが発展してしまっています。3月中旬に更新されましたが、あまりわくわくしないですし、もったいないと思っているので、廃止するか修正するかの方が良いと思います。

また、スマホで見ようとするとさらに動きが遅いです。ほとんどの方がスマホで見ると思うので、その点が課題です。最後のアウトプットのところで少しつまずいてしまう可能性があると思いました。

【参加者】

ラインで発信している平塚市の情報を、ママさんたちはよく見えています。ただ、市からの全ての情報が送られてくるので、もし可能であれば、子育て専用のラインや高齢者向けのラインなどができると、情報が早く見つけられるのではないかと声をいただいています。

私たちも、このような場で市長と意見交換をさせていただきましたなど、情報交換についての発信をしていきたいと考えています。行政が我々のことを一生懸命考えてくれているのだから、一緒になって良いまちにしていけるよう発信していきたいと思っています。

【司 会】

「わくわくマップ」は大変労力をかけて作られていて、その経緯は私も知っています。ただ、見づらいかもしれないですし、見たい情報にたどり着くまでに相当なステップを踏む必要があります。ラインに関する要望もありました。いろいろと御意見いただきましたが、最後に市長から御挨拶いただければと思います。

7 市長によるまとめ

改めて足りないところを御指摘いただきました。皆様が無理なく、自分たちの自己実現も含めて、子育てに関することに取り組んでいることが分かり、素晴らしいと思いました。

市役所は税金を使うことから、形をしっかりと整えて、各団体との様々な連携も含めて、しっかりと計画が出来上がってから動き出すという性格があります。皆様から御指摘をいただいたフレキシブルな動きについては、参考にさせていただきたいと思っています。

平塚市は子育てしやすいまちだと言っていたことが、これから平塚市の持続可能なまちをつくっていくためには、重要になると思いますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

総合計画という大きな計画を作る中で、子育て支援を一番頭に位置付けましたので、職員もどれだけ大切かは分かっていると思います。職員一丸となって子育て支援を考えていきます。

今まで子育て支援は、「安心して子育てができる環境をつくる」、「子どもの発達を継続的に支援する」、「子どもの貧困の連鎖を断つ」という三つを政策のフレームとして考えてきました。今後は少子化対策をどうするかこの視点も入れながら、「希望する結婚・妊娠・出産がかない、子育てにゆとりが持てる」を新たな柱として加え、少子化対策と子育て支援を一緒に進めていくことを考えています。

去年の12月から小児医療費を高校卒業まで無料にしました。また、平

塚市は中学校給食がありませんでしたが、この9月から完全給食を開始することで、皆様に喜んでいただいています。お母さんたちの働き方や子育てなどに良い影響が出るよう一生懸命考えながら進めていくことによって、平塚市が市制100周年を迎えるときには、子育てしやすいまちづくりができていると評価していただけるようなまちを目指していきたいと思います。今日お話を伺う中で、様々なポイントを指摘していただきました。特に広報の関係などは、しっかりと担当に伝えて、引き続き、子育てしやすく、子どもが輝くまちを作っていきたいと思います。「ママぎゅっと」の皆様には、引き続きの御活動をお願いしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。